



今どきの大学生の生活感



～鳥取編～



発行：とっとり若者地方創生会議

発行年：2019年

目次

1. とっとり若者地方創生会議とは	1
2. ハンドブック作成の経緯と目的	2
3. 鳥取市内の大学の状況	3
鳥取大学	3
公立鳥取環境大学	4
両大学の年間の基本的なスケジュール概要	5
4. 鳥取の大学生の生活調査（アンケート結果）	6
5. 今どきの若者の傾向	10
6. アンケートから分かること	11
7. 広報のしかた（ポイント・注意点）	12
8. まとめ	13
9. 相談窓口	13

1. とっとり若者地方創生会議とは

◎概要

地方創生の中心課題である「若者の移住・定住」や「まちのにぎわいづくり」について、若者の視点で考え、行動し、取り組むことを目的に、鳥取市が設置した組織です。活動は、今年度（平成 30 年度）で 3 年目を迎えます。

◎平成 30 年度メンバー構成

鳥取大学学生 3 名、公立鳥取環境大学学生 5 名

◎これまでの主な活動

平成 30 年度

アンケート調査：ハンドブック作成のためのアンケート調査（5～6 月）

視察・交流：岡山市大学生チャレンジ事業中間報告会参加・交流（11 月）

企業見学会：大山乳業農業協同組合（11 月）、株式会社鳥取銀行（平成 31 年 1 月）



平成 29 年度

バスツアー：鳥取の新しい楽しみ方を提案するバスツアー

「よるバス～土曜の夜更かしナイト～」(9 月)

社会人と大学生の交流会：「カフェ・de・トーク 2」(11 月)

マップ作成：新入生に中心市街地を紹介する

「ぐるっ歩マップ」(12 月～平成 30 年 3 月)



平成 28 年度

アンケート調査：鳥取の魅力についてのアンケート調査（10 月大学学園祭にて実施）

社会人と大学生の交流会：「カフェ・de・トーク」（1 月）

視察・交流：島根県雲南市

幸雲南塾・雲南コミュニティキャンパス・

NPO 法人の取組など（1 月）



2.ハンドブック作成の経緯と目的

「とっとり若者地方創生会議」は、3年前から活動を始めました。大学生を中心とした若者に鳥取への定住を考えてもらうためには何が必要かを考え行動してきました。そもそも在学中に鳥取の魅力に触れていないことを課題とし、ツアーを企画したり、中心市街地の隠れたお店を紹介するオリジナルのマップの作成などに取り組んだり、活動は多岐に渡ります。

これらの活動の中で、企画の参加者に好評をいただくなどの成果がある一方で、ターゲットとする学生が集まらない等の課題も見えてきました。私たちが特に課題と感じた点が「学生への広報と参加者を募ることの難しさ」です。どれだけ時間をかけて企画しても、参加してもらえなければ意味がありません。では「どうしたら伝わるのか、参加してもらえるのか」、また「今の学生の価値観がどんなものか」ということについて、アンケート調査を行い、学生である私たち自身が考えました。このハンドブックでは、私たちが活動する中で得た知見や、今どきの若者の価値観・生活感をまとめています。鳥取に住む大学生に関わるすべての方々に読んでいただき、役立てていただきたいという気持ちで作成しました。若い世代、特に大学生の現状を知っていただき、地域の方と良い関係を築く手助けになれば幸いです。



3. 鳥取市内の大学の状況

■ 鳥取大学

鳥取大学は現在、地域学部、医学部、農学部、工学部の4学部10学科で構成されていて、学部、大学院合わせて6,199名(男性3,872名62.5%、女性2,327名37.5% H30.5.1現在)が学んでいます。入学者に占める県内出身者の割合は16.3%(H28-30年度3ヵ年平均)、就職については、県内就職率21.5%(H27-29年度3ヵ年平均)と、県外出身者が大学4年間を鳥取で過ごすものの、卒業後の鳥取への定着率は高いとは言えません。

鳥取大学における特色ある取り組みの1つとして、地域学部における「地域調査プロジェクト」があります。2回生が通年の必修科目として取り組みます。内容は、鳥取県内の市町村を実習地域に定めて、現地調査を行い、個人または少人数のグループに分かれて地域課題の抽出とその解決策を検討するというものです。通年で時間をかけて調査研究ができ、実際に鳥取県内の地域の現場に入って取り組むことができることが特徴です。

■ メンバーから見た鳥大生

『勉強では専門性を追求！ちょっぴりシャイな学生』

鳥取大学は公立鳥取環境大学のような学部間の相互交流は少なく、また理系の学部も多いため、学年が上がるほど、それぞれが専門性を深めていくような印象です。また、鳥大生の中では、積極的に地域活動に参加する学生は多くはありません。地域活動やボランティア活動、またイベントへの参加や企画運営に携わる学生はいるものの、全体から見ればごく少数です。一方で、「個展を開きたいけど誰に相談すればいいかわからない」、「環境大生ともっとかかわりを持ちたい」、「ボランティアや市民活動などに参加してみたいけど、自分の時間も確保したい」などといった声は聞かれます。大学の授業や調査などを通じて、地域にかかわることに面白さを感じてはいても、一歩踏み出せない学生が多い印象です。



■ 公立鳥取環境大学

公立鳥取環境大学(以下環境大学)は、環境学部環境学科、経営学部経営学科の2学部2学科で構成されていて、学部・大学院合わせて1,204人(男性745人61.9%、女性459人38.1% H30.5.1現在)の学生が学んでいます。入学者に占める県内出身者の割合は、14.5%(H28-30年度3ヵ年平均)です。また、就職状況における県内就職者の割合は、18.2%(H27-29年度3ヵ年平均)です。鳥取大学と同様、卒業後の鳥取への定着率は高いとは言えない状況です。

環境大学の特徴は、プロジェクト研究があること、先生との距離が近いということの2点です。プロジェクト研究は、先生の専門分野について自分たちでテーマを決め、研究、発表をするというもので、卒業論文に向けての準備として有効な授業です。また所属学部を問わず、環境、経営のどちら分野を選んで取り組んでもよいため、卒業論文では書くことができない分野を研究することも可能で、経営学部の学生でも環境学部の先生と仲良くなれます。

次に先生との距離が近いということですが、学生数が少ないため、研究室に行って先生に質問などをすることが可能な時間(オフィスアワー)が各先生1週間に2回設定されています。さらにゼミ室と学生の自習室、先生の研究室が同じ棟に混在しているため、生徒と先生が日頃から顔を合わせやすい環境にあります。

■ メンバーから見た環大生

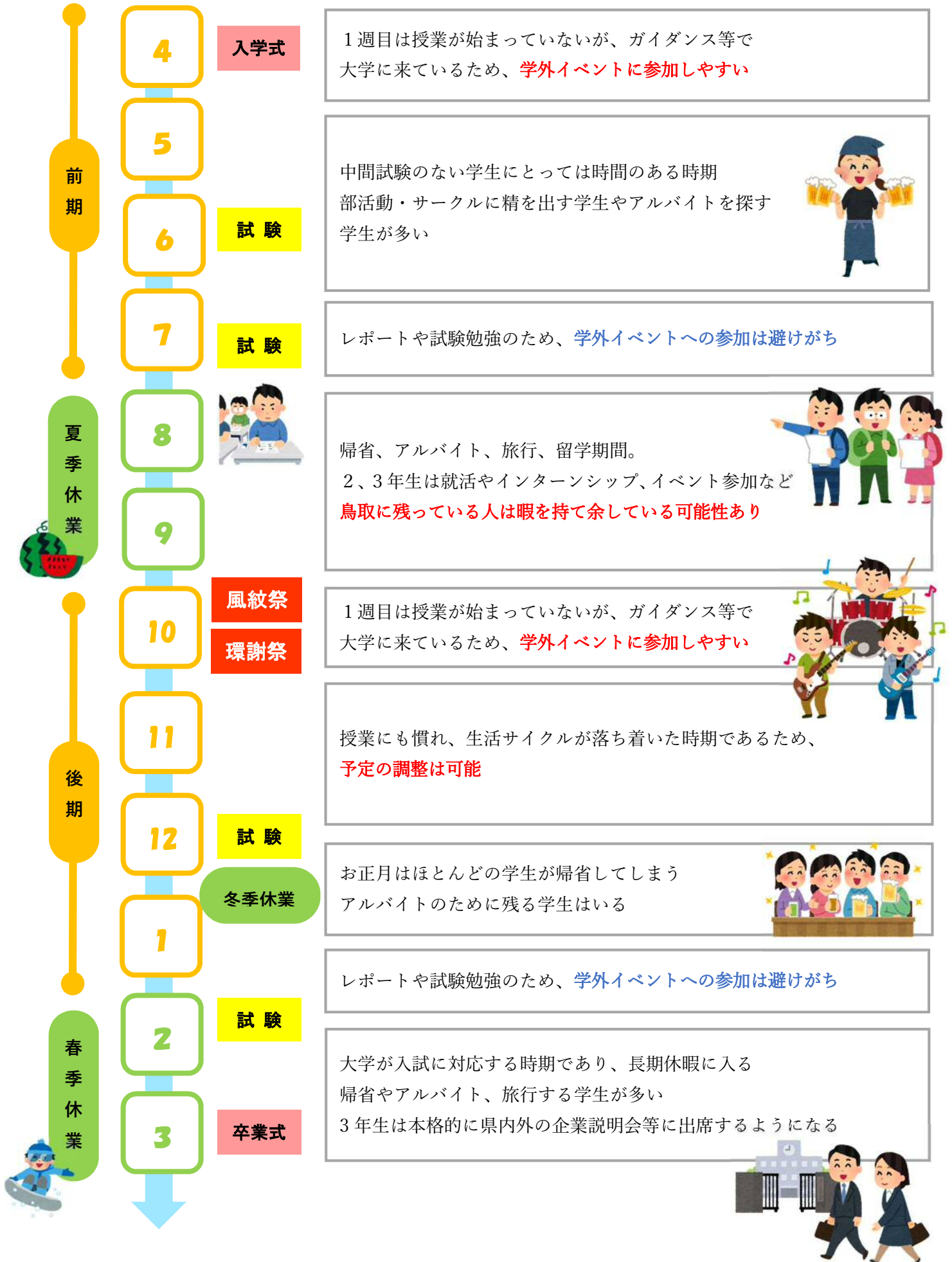
『 好奇心の赴くままに駆け回る学生 』

環境大学は学生数が少なく、両学部共通の授業が多数あるため、学部・学年関係なく学生ほぼ全員と知り合いになることが可能です。また、活動的な学生が多く、やりたいことや部活動に積極的に取り組んでいます。そういった特徴を表しているのが、ヤギ部や起業部、馬っこ部といった珍しい部活動が多いこ

とです。兼部している学生も多く、「一人がいろいろな活動に関わっている」＝「いろんなことに興味がある」、という印象です。また、大学が若葉台に位置し、学生が多く住んでいる地域の周辺に飲食店が少ないため、打ち上げ等をするのにも遊ぶのにも、友達の家に来る場合がほとんどです。



両大学の年間の基本的なスケジュール概要



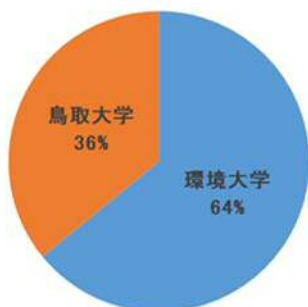
4. 鳥取の大学生の生活調査

実施：とっとり地方創生若者会議
期間：平成30年5月～6月
対象：鳥取市内在住の大学生 142人
実施方法：インターネット
(グーグルフォームを利用)

アンケート結果：

会議メンバー意見：

所属大学

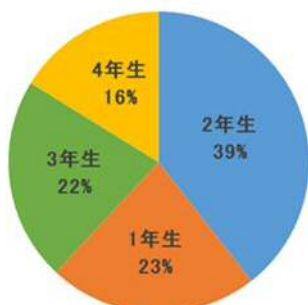


1. 所属大学

環境大学生が64%。

・回答者の内訳の比率は、調査を実施（声掛け）した「とっとり若者地方創生会議」のメンバーの過半数が環境大学生のためと考えられる。

学年

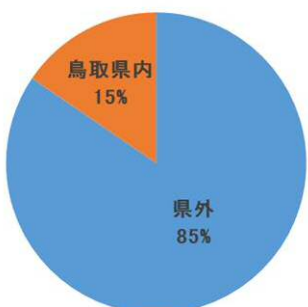


2. 学年

・学年は、2年生の割合が多い。

・2年生が多いことが以下の調査結果に影響している。

出身

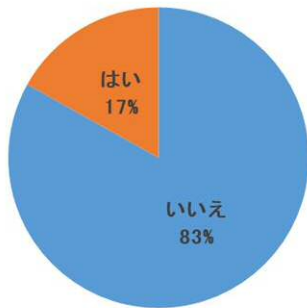


3. 出身県

・県内出身者割合は15%で、大学の特徴が表れた結果になっている。

・回答者のうち、環境大学の学生が6割程度だったため、環境大学の県外出身学生が多いという特徴が反映されている。

自動車保有率

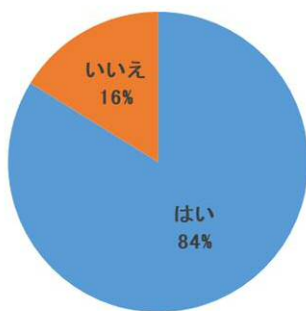


4. 自動車保有率

・アンケート回答者の8割が自動車を持っていない。

・会議メンバーの感覚では、2年生の後半から自動車を持ち始める人が多い。(アンケート回答者の1・2年生割合62%)

テレビ保有率

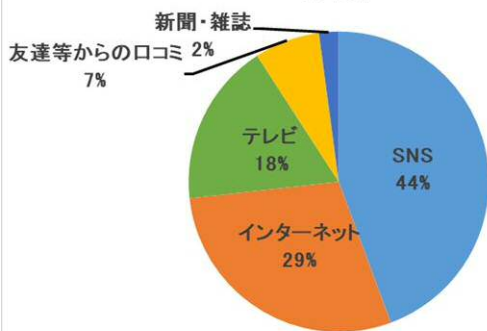


5. テレビ保有率

・アンケート回答者の8割がテレビを所有している。(2割は所有していない。)

・テレビを所有していても「テレビゲームのモニターとしての利用」が考えられる。
・反対に2割の学生がテレビを持っていないことから「テレビ放送を見ていない学生」が一定数いると思われる。

情報源

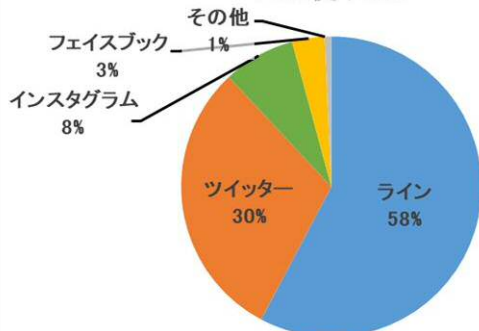


6. 何から情報を得ているか

・SNSが44%を占め、情報源の主なツールであることが分かる。

・インターネットは、グーグルなどの検索サイトを使用していることが想定される。
・テレビを情報源として利用している人は、2割に満たない。

主に使うSNS



7. 主に使うSNS

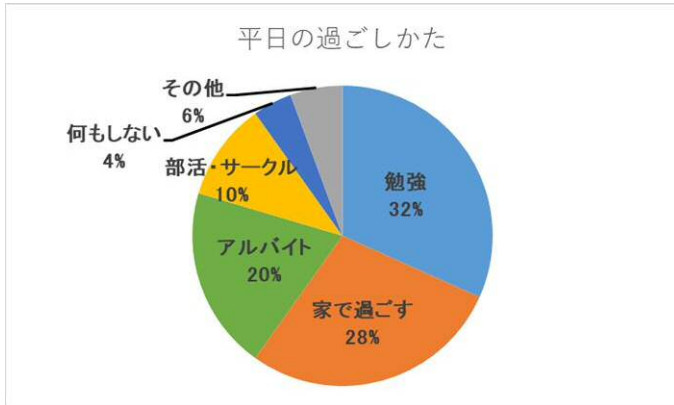
・ラインが58%、次いでツイッター30%と使用されており、その他のSNSはこの2者に比べると1割以下と少ない。

・ラインは日常の連絡手段。ツイッター日々のニュースや友達の出来事をチェックする。災害などの緊急時にも使用する。
・メンバーの感覚では、インスタグラムの利用は閲覧のみで、自ら情報発信しない人が多い。

8. 平日の過ごし方

・問10の結果と合わせて考えると、平日は勉強（授業）が優先される。

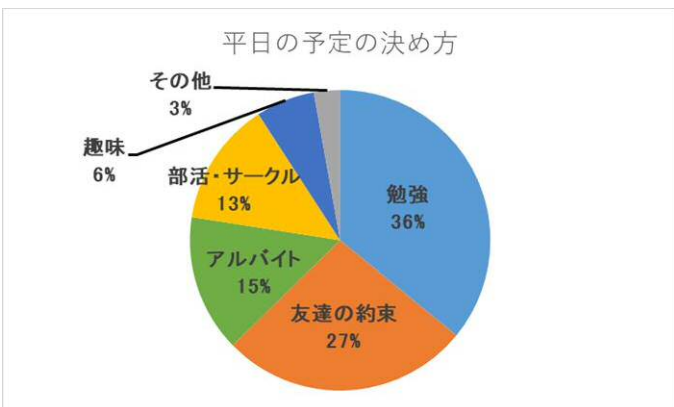
・平日はアルバイトのシフトが少なく、休日はアルバイトのシフトが多い傾向にある。
 ・回答者に2年生が多いことも影響していると考えられ、メンバーの感覚では、3年生からは比較的授業が少ないためアルバイトを優先する学生が多い。学年によって1週間のスケジュールやスタイルが違う。



9. 平日の予定の決め方

・勉強（授業）の優先度が第1位だが、2位は友達との約束である。

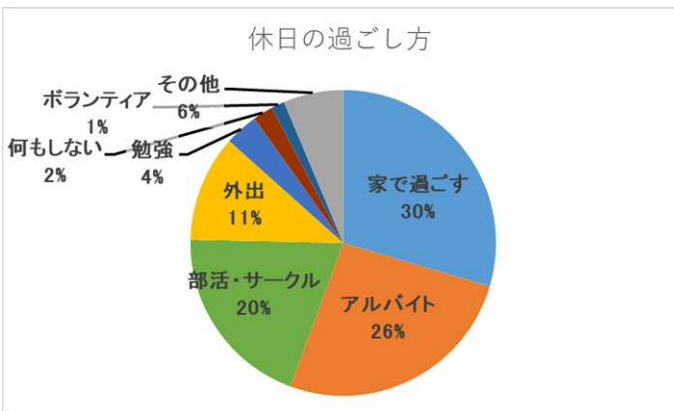
・平日は勉強（授業）が最優先事項。「勉強」の選択肢を「授業」と捉えた人と「自主的な学習」と捉えた人があり、考えられ、「友達との約束」の割合も多い結果となった。



10. 休日の過ごし方

・休日を家で過ごす学生が30%いる。部活・サークル活動をしている人も少なくない。

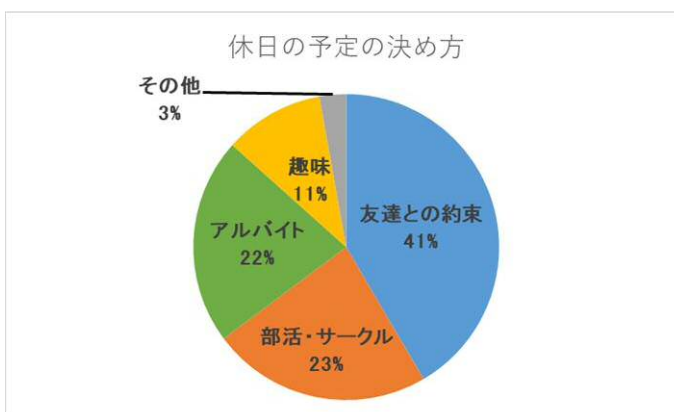
・アルバイトが平日より多いのが特徴。
 ・アルバイトや部活・サークル以外で外出する人は1割程度しかいない。

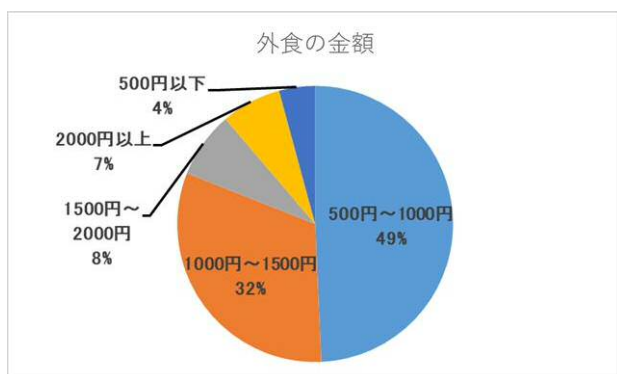


11. 休日の予定の決め方

・友達との約束が最優先。ついで部活・サークルとアルバイト。平日と休日のオンオフがはっきりしている学生が多い。

・友人との約束を優先する学生が多いので、イベントなど参加についても、友人からの誘い・口コミの影響が強いことが想定できる。





12. 一回の外食に使う値段

- ・ 500円～1500円を合わせると81%になる。

- ・ 500円から1500円の間が、学生が気軽に払える金額。
- ・ 食事を提供されるイベントに魅力を感じる学生も多いと思われる。



13. 鳥取市HPの閲覧

- ・ アンケート回答者35%が市のHPを見たことがある。

- ・ 閲覧分野から想像できることは、大学の授業関係で情報が必要であったり、アパートごとにゴミ出しのルールが異なるため確認するなどの利用が多い。
- ・ 災害情報関連情報を見る学生もいる。
- ・ HPは何かしらの目的があり、調べるために閲覧する学生がほとんど。

内訳

- ・ 大学関連：14回答
- ・ 観光関連：5回答
- ・ 就職関連：4回答
- ・ 補助金関連：2回答
- ・ 災害情報：5回答
- ・ 鳥取関連：14回答
- ・ ゴミ関連：3回答

5. 今どきの若者の傾向

ここでは、全国的の学生を調査した資料（ベネッセ教育総合研究所実施：2008年以降、4年ごとの実施）等をもとに、今どきの若者の傾向を大まかにまとめました。

1. 生活スタイル

- ・学生生活の中で力を入れていること（とても+まあ力を入れた）を見ると、2012-2016年の4年間で「大学の授業」が5.0ポイント減少し、「アルバイト」での収入が増加している。経済的な自由から、学生がアルバイトを増やさざるを得ない状況にあることがうかがえる。



保護者からの収入が減り、アルバイトに力を入れる学生が増加。

2. 学びに対する姿勢・態度

- ・2008-2012-2016年の8年間で学習方法を「自分で工夫」するよりも「大学の指導」を受けたいと考える学生が11.4ポイント、学生生活について「学生の自主性に任せる」よりも「教員の指導・支援」を受けたいと考える学生が22.9ポイント増加しており、自分で工夫するより誰かに指導してほしいという姿勢がよくなっている。
- ・また、「単位取得が難しくても興味のある授業」よりも「あまり興味がなくとも楽に単位を取得できる授業」をよいと考える学生が12.5ポイント増加しており、授業や学びに対する考えにも変化がみられる。
- ・2012-2016年にかけての4年間で、「グループワークやディスカッションでは、異なる意見や立場に配慮する（とても+まああてはまる）」11.4ポイント、「グループワークやディスカッションで自分の意見を言う（同）」7.1ポイントの増加がみられ、今の学生が集団の中で意見をスムーズに主張する訓練を積んでいると分かる。



学習に対しては、自分で工夫するより誰かに指導してほしい、という受け身の姿勢が強くなっている。一方で、グループワークやディスカッションで意見をスムーズに主張する訓練を積んでいる。

3. SNSの利用

- ・「普段情報源として使っているもの」について、若者（24歳以下）は、テレビやパソコンを利用するが、30代はテレビやパソコン、新聞などたくさんの手段を使って情報を収集している。特に新聞は30代以上に情報収集として利用する傾向が強い。
- ・SNSを代表するサービスの利用頻度については、ラインは世代共通して利用されており、若年（24歳以下）では、ツイッターやインスタグラムの利用が多い。30代以上では、ツイッターよりフェイスブックの利用が多いのが特徴。



SNSの利用については、ラインの利用は世代共通であるが、ツイッターとフェイスブックの利用の仕方は、若年（24歳以下）と30代以上で異なる。

【参照】上記 1. 生活スタイル 2. 学びに対する姿勢・態度

・キャリアコネニュース 学生の受け身傾向強まる？学習の方法は「教員が指導・支援するほうがよい」との回答が増加
(<https://news.careerconnection.jp/?p=39372>)

・ベネッセ教育総合研究所 第3回大学生の学習・生活実態調査報告書[2016年]

(https://berd.benesse.jp/research/result.php?t%5B%5D=2&startY=2015&startM=12&endY=2019&endM=01&btn_search=1)

【参照】上記 3. SNSの利用

・ライン株式会社 ラインリサーチ 今どきの高校生と大学生ではSNSの使い方が違う。ラインリサーチから見えた大人が知らない若者のインサイト
(<https://moduleapps.com/mobile-marketing/11787rpt/>)

6. アンケートから分かること

本ハンドブック P5～の「鳥取の大学生へのアンケート」をご覧ください。アンケートの回答者は環境大学の学生が多いのですが、公共交通機関の利用が便利とは言えない場所にある大学に通いながら、自動車を保有している学生は多くありません。鳥取で生活している方にはご理解いただけることと思いますが、鳥取で暮らしながら自動車を持たないということは、日常生活の行動範囲が広くはないということです。

他には、平日より休日にアルバイトをしている学生が多いことと、外出する学生が少ないことも特徴に挙げられると考えます。近年、大学のシラバス（講義要項）が非常に厳格化されています。授業への出席の義務化やレポート提出など課題の増加が主な例です。大人の方とお話しする際に、「(大学時代は) 大学に行かずにバイトしていた」という声を聞くことが度々ありますが、現在の大学生は、授業に出席しないと単位を取ることができないため、平日は自由になる時間が少ない状況です。さらに、平日の夜にバイトをして、生活時間が乱れてしまい悪循環に陥る学生がいるのも事実です。

また、大学生へのアンケートや、いくつかのイベントの広報を通して分かってきたことがあります。今の大学生がイベントなどに足を運ぶ際に最も有効なのは「友人からの誘い」でした。SNSが発達し、情報過多



の生活の中だからこそ、「自分から情報を得る」ということよりも「入ってきた情報から選ぶ」という習慣がついているのかもしれない。友人からの誘いの場合は、一緒に行く人がいる・安心できる等の理由から、参加しやすいと考えられます。大学生を対象とした企画を考えられる際は、単にチラシ・ホームページ・SNS等の広報だけでなく、関係する大学生への声掛けや大学生が主体的に参加したくなる要素を整えると効果的だと考えられます。

7. 広報のしかた(ポイント・注意点)



「SNSでの広報について」

- アンケート結果からもわかるように、学生の情報源の44%がSNSです。また利用しているSNSはライン58%、ツイッター30%と合わせて90%弱を占めています。
- SNSの主な利用目的は、ラインは「連絡手段」、ツイッターは「情報収集」という傾向があり、ツイッターを利用している目的は、「リアルな友人とのコミュニケーション」「面白い話題・ネタ・雑学の情報収集」であるため、広報をする際はツイッターが望ましいと考えます。ツイッターはアカウントをフォローしていないと閲覧されないため、学生から投稿してもらう必要があります。逆に言うと投稿してくれる学生とのつながりが必要です。
- フェイスブックやツイッターで広報を行う場合の、「詳しくは下記のURLにて」の表示は、好まれません。URLは詐欺や個人情報流出の可能性が考えられるため、広報ページにURLが添付してあるだけで、閲覧せずに流し読みしてしまう可能性があります。

「SNS以外の広報について」

- SNSや紙媒体の広報より、友人からの口コミの広報は信頼性が高く、また、イベントに1人で参加するケースが少ないこともあり、友人からの口コミ・誘いがとても有効であると考えられます。
- そのほかには、授業で教授や関係学生に広報してもらう方法が確実です。
- 学内で広報をする際は、学生の目につくことが多い場所(食堂・売店)が学生に注目されやすいと考えます。逆に、学内ウェブ・学内掲示板の注目度は、決して高くありません。
- チラシやポスターなどは、デザイン性に注目する傾向があり、また文字数が多いものは嫌われます。一見して分かるデザイン・情報量が望ましいと考えられます。

「企画内容について」

- アンケート結果のとおり、学生の車の所持率は2割程度です。企画やイベントを考えられる際は、集合場所や開催場所が、学校周辺か交通アクセスのよい場所が望ましいと考えられます。
- 参加費は、500円から1500円以内(1回の外食に使う金額を参考)が参加しやすいと思われます。参加費も重要な判断基準の1つであるため、コストパフォーマンスが高いことが分かる内容であると効果があると考えられます。
- 休日は「家で過ごす」学生が3割程度ありますが、家で過ごす場合であってもスーパー等に行く頻度は高いため、学生の利用頻度の高い(湖山周辺、若葉台・津ノ井・正蓮寺周辺)スーパー・コンビニ内に広報チラシを配置するのも効果的な広報と考えられます。
- 企画やイベントの内容に食事の提供があることや、交通費の支給があることも学生の参加意欲が高くなると考えられます。

「広報期間について」

- 平日や休日の予定を決める際の優先順位は、①授業、②アルバイト、③サークル・友人との用事、④その他、の順です。イベントは「④その他」に分類されると考えられ、学生の中では優先度が低い傾向にあります。このため、参加の意思決定がイベント等の直前になる場合が多く、申込締切はイベント日程の直前がよいと考えます。

8. まとめ

鳥取に住む人口の中で大学生は決して多いわけではありません。しかし、学生が来るようになって盛り上がった飲食店や、今や学生がいなければ回らないお店もあります。また、将来の地域経済を担う世代であることも踏まえると、大学生に「鳥取に残りたい!」と思ってもらうことは重要ではないでしょうか？



鳥取の大人の方々から「今の若者は元気がない」「今どきの子は根性がない」などのお言葉をいただくことが度々あります。お話を伺うと過去の教育・指導の厳しさなどに驚かされ、そのことを考えると大人の方々が今の私たち世代に対して、どうしてそう言われたのか理解できます。しかし、私たち世代にはたくさんの情報の中から必要なものを引き出したり、周囲の人との協調性を大切にするといった得意分野もあります。

また、「鳥取には何もない」「面白い場所や紹介すべきものがない」といった声も度々聞きます。しかし、県外から来た学生が、そのような否定的な意見を言われて鳥取に残りたいと思うのでしょうか？

県外から来て、鳥取で暮らしている卒業生にその理由を尋ねると、「鳥取の素敵な人に出会えたことがきっかけだ」と口を揃えて言っています。「何もない」ではなく、鳥取の魅力、人・仕事・モノの魅力を大いに語っていただきたいです。そうすれば、きっと今以上に多くの学生の胸に鳥取という地が残るはずです。鳥取の未来を、若い世代と地元の方々とは描いてくためには、お互いがお互いを理解することが必要不可欠です。我々会議メンバーと一緒に、鳥取の魅力を若者に伝えることに積極的になっていただければ幸いです。

9. 相談窓口

実際に大学生と何か取り組みたいと思われた際は、こちらにご相談ください。

とっとり若者地方創生会議事務局

鳥取市役所 企画推進部政策企画課

鳥取市尚徳町1-1-6番地

電話：(0857) 20-3153 メール：kikaku@city.tottori.lg.jp



鳥取大学 鳥取大学地（知）の拠点による地方創生推進室

鳥取市湖山町南4丁目1-0-1番地

電話：0857-31-5922

公立鳥取環境大 企画交流推進課

鳥取市若葉台北1丁目1番1号

電話：0857-38-6704